



新幹線の新感性

山口県下松市の板金加工会社、山下工業所がアルミ製のバイオリンを完成させた。新幹線の先頭部分「オデコ」を製造してきた技術力を生かし、職人がハンマーで胴体の曲線を打ち出した「名器」だ。

モデルにしたのは「三大ストラディバリウス」の一つとされる1716年製の名器。英国から寸法測定図を入手してつくった。木製ほど音色に伸びがないものの、「不思議ないい音がします」と演奏した三好真樹子さん(29)。ただ、重さが約1キと普通の倍なので「1曲弾くごとに休憩がいります」。

不思議な音を奏でるアルミ製バイオリン。左奥は昨年作られたチエロ28日、山口県下松市、藤脇正真撮影